

第7回 (2009年11月18日)。「学校へ行ったら助成金がもらえます」課題

Skoufias, Emmanuel (2006)

“Poverty alleviation and consumption insurance: Evidence from PROGRESA in Mexico”

Journal of Socio-Economics 36:630-649.

有本 寛

2009年10月19日

1. 報告者への課題

- (必須) Abstract, Introduction and motivation, Concluding remarks を読み、背景、課題と方法、結果を解説すること。また、2を読んで PROGRESA の概要を解説すること。
- (発展) 3 (導入部, 3.1) を読み、(1) 式と Table 2 を解説すること。
- (さらに発展) 3.2 を読み (3) 式と Table 3 の結果を解説すること。

2. 背景

- 途上国では農産物の不作や価格の下落、病気や失業などのショックが生活の危機に直結することがある。所得の変動に対して消費の変動を抑えることを消費平準化 (consumption smoothing) という。通常は、所得ショックに対して、親族や近所の人など、リスクを分散するグループ (insurance group) 内で食料やお金を融通し合う所得移転や相互扶助が行われる。これらの手段を使って、リスク分散グループ内の家計間でリスクを分散することをリスク・シェアリングと呼ぶ。
- こうした既存のリスク・シェアリングの仕組みに対して、PROGRESA はどのような影響を及ぼすことが心配されていたか。(ヒント: _____ing out)
- PROGRESA (現在は Oportunidades) の概要 (ねらい、内容、しくみ、特徴) を解説すること。
 - Section 2.を参照。
 - Oportunidades HP : http://www.oportunidades.gob.mx/Wn_English/index.html
 - 世銀のサマリー :
<http://info.worldbank.org/etools/docs/reducingpoverty/case/119/summary/Mexico-Oportunidades%20Summary.pdf>

3. 課題と方法

- リスクとリスク・シェアリングについては、黒崎 (2001 : 第8章)、黒崎 (2009 : 第9章) を参照。
- もし、所得移転や相互扶助によるリスク・シェアリングが完全であれば、消費は所得の変動にまったく左右されないだろう。これが実際にそうだとすれば、(1) 式の推計結果 (特に β の係数) はどのようなになると予想されるだろうか。
 - まず (1) 式の説明変数と被説明変数をおさえること ((1) 式の下に説明あり)。 Δ は 2 時点の差を表している。 τ_t はリスクをプールする集団全体にかかるショックの影響を取り除くために入れられた変数である。負の所得ショックは特定の家計だけに影響する固有 (idiosyncratic) なものと、リスク分散グループ全体を襲うマクロ (aggregate) なものに分けられる (例: 前者 → 家長の病気や死亡, 後者 → 洪水でコミュニティ全体の農地が水没)。 τ_t は後者の影響を除去する。リスク分散グループ内のすべての家計が同時にショックを受けた場合は、互いに融通し合うこ

とができないため、消費の平準化が困難になることに注意。 τ_t は実際は (1) village $\times$ year のダミー変数, (2) year のダミー変数が使われている (p.636 下部~p.676 上部)。

➤ $\beta = 0$ だとどのようなことがいえるだろうか。逆に $\beta = 1$ はどうか。どちらがリスクに脆弱。

- (2) 式は, (1) 式を拡張し, PROGRESA の対象村 (処置群) と非対象村 (対照群) にリスクへの脆弱性を分けて識別できるようにしたものである。
 - PROGRESA はリスクへの脆弱性を軽減するか, 増幅するか, どちらが考えられるか。それぞれの場合の理由は何か。Introduction のモチベーションはどちらを懸念しているか。それに同意できるか。
- その場合, β_p の符号は正負どちらか。

- 推計されるパラメータ β と β_p は, それぞれどのように解釈されるか。(2) 式の下に説明あり)。

4. 結果

- Table 2 の読み方 (それぞれの行や列が何を意味するか) を説明すること。
- 推計結果 (a) と (b) の違いは, Insurance group の範囲の違いである。(a) は “all households in the village” であるのに対して, (b) は “all households in the sample”。すなわち, (a) は village をひとつの insurance group (所得移転や相互扶助を行うグループ) とみなしているのに対して, (b) は全サンプルを insurance group とみている (つまり居住している village にかかわらず, すべてのサンプルの家計が相互に所得移転や相互扶助を行っている) と仮定している (このことの説明は p.636 の最後のパラグラフを参照)。
- 推計結果から, 消費平準化は完全といえるだろうか。

5. その他

- 負の所得ショックに対して, 他にどのようなリスク分散の方法があるだろうか。なぜ途上国ではそれらの方法が十分に活用できないと考えられるか。
- この論文の枠組みでは, 所得と消費が連動していることをリスクへの脆弱性と捉えている。つまり, 所得が減った $\rightarrow$ 消費が減ったという関係だけでなく, 所得が増えた $\rightarrow$ 消費が増えた という関係もリスクへの脆弱性として捉えられる。これについてどう思うか。もし前者だけでリスクへの脆弱性を定義したい場合, どのような分析を行えばよいだろうか。
- 助成金の給付に条件をつけることに対して, どのような利点や問題点があると考えられるか。
- 「子ども手当」が親の不適切な支出に使われるという指摘がある。条件付き給付は, 日本でも応用できるだろうか。

6. 用語

- Conditional cash transfer: 条件付き助成金給付。ある条件を満たした場合に限り助成金が給付される。
- Idiosyncratic shock: 家計固有のショック。ある家計だけに降りかかったショック。
- In-kind: 現物の。
- Significant: (統計的に) 有意な
- Panel data: パネルデータ。多数の家計を複数年次に渡って追跡調査したデータ。

- **Census:** 悉皆調査。全数調査。
- **State contingent commodities:** 条件付き財。ある状況が発生したときに受け取れる財。一種の債権・保険。条件付き財の市場が完全であれば、あらゆる状況に対して適切な保険の組合せを購入しておくことで、リスクをヘッジできる。
- **Aggregate/covariate shock:** 集計的な、共変動の。リスク分散グループ全体が受けたショック。
- **Autarky:** 自給自足。この場合、家計がまったく独立にリスクへ対処すること。

7. 文献

- 黒崎卓（2001）『開発のミクロ経済学』岩波書店
- 黒崎卓（2009）『貧困と脆弱性の経済分析』勁草書房